

南股地区

地域計画 課題と将来の方向性 ダイジェスト版



【南股地区的農用地等面積】 328.4 ha

うち 【田】 227.8 ha 【畠】 90.2 ha

(農業振興地域のうち農用地区域内の農地面積 309.1 ha)

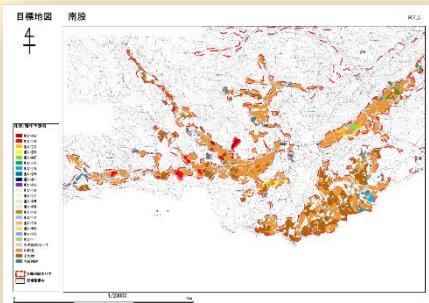
- ・今後農業を担う者が引き受ける意向のある農地面積 合計 25.4ha
- ・南股地区における 75 才以上の農業者の農地面積 合計 82.5 ha
- ・主な生産品目：水稻、りんどう、ピーマン、麦など

(令和7年8月 26 日現在)

地域農業の課題

- 1 耕作条件の不利・小区画農地(大原、畦畑、河内、増味)
 - 中山間地域・小区画圃場・狭小な道路 → 水稻・リンドウ以外の作付困難(大原・畦畑)
- 2 高齢化・後継者不在(全域)
 - 農地の管理困難な農地の増加が懸念される
- 3 住民減少による環境維持の負担増(大原、畦畑、河内、増味)
 - 除草作業など共同作業の負担増加
- 4 有害鳥獣による被害(大原、畦畑)
 - イノシシ・シカ等の被害が拡大

南股地区的目標地図



地域計画は、奥州市内 45 地区で策定をしました。

地域計画は、地域の実情に合わせた取り組みを進めるため、地域の話し合いで出し合った「課題」や「今後の方向性」を取りまとめたものです。また、農地一筆ごとに 10 年後の耕作者を取りまとめた「目標地図」も作成されています。

このダイジェスト版は、地域農業の「課題」や「今後の方向性」を抜粋して作成したものです。

地域の現状は毎年変化していくものですので、年に1回程度、地域の皆さんで「課題はありますか?」、「困り事はありますか?」、「やってみたい農業はありますか?」など、話し合ってみてはいかがでしょう。

地域農業の方向性

1 主要作物の継続と複合経営

- └ 水稻を主要作物として維持(大原・畠畠)
- └ リンドウとの複合経営推進(大原・畠畠)

2 持続的農地活用・保全

- └ 中山間地域等直接支払の活用継続
- └ ゾーニングによる農地の役割分担「生産・保全・畠地化」(大原)

3 新しい農業・耕作放棄地対策

- └ 麦やブルーベリー等新作物の導入検討(河内)
- └ 放棄地への観光資源作付(しだれ桃、桜)(河内)
- └ 農用地以外の活用も視野に(河内)

4 経営・基盤強化

- └ 農業機械・施設の共有体制づくり(増味)
- └ 基盤整備による農地集約・効率化(畠畠)

5 後継者(担い手)対策

- └ 若手・近隣農業者への集積・集約移行(大原)
- └ 農地中間管理機構の積極活用

6 鳥獣害対策

- └ 櫻設置・情報共有・捕獲人材育成等で被害防止

7 農業のスマート化・有機化等の検討

- └ 有機・減農薬米の推進(河内)
- └ 補助等支援があればスマート農業実装検討(河内、畠畠)

8 農地保全・管理事業活用

- └ 直接支払交付金等を活用し農地・農道等の保全強化

このダイジェスト版を「地域の話し合いに使いたい」「振興会に配りたい」などのご要望がありましたら、印刷してお渡しすることもできますので、下記までご連絡ください。

また、目標地図や他の地域計画は、奥州市ホームページに掲載しています。

※個人情報に該当する部分は掲載していません

■掲載ページ URL

<https://www.city.oshu.iwate.jp/soshiki/7/1057/2/chiikikeikaku/17284.html>

▶ 市ホームページでの検索方法

奥州市ホームページ→「情報を探す」→「ページ ID を入力」の入力欄→「17284」を入力→検索

▶ スマホやタブレットなどで下記 QR コードを読み込む



■問い合わせ…奥州市農政課人農地プラン推進室 (TEL 0197-34-2371)

